

**授業概要**

「日本が東アジアの中で生き抜く」上での経済の最重要課題は何かを講義する。名目 GDP1 兆ドル以上の国は中国、日本、インド、韓国の4か国で、この4か国でアジア全体の8割以上を占めている。授業では、アジアのこの4か国に視点を置き、そこから日本のあり方を考えたい。NIES、東南アジア（タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン）、中国、ベトナム、ミャンマー、南アジアを中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、日本とアジア諸国の経済一体化の進展について、その基礎知識を学ぶ。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第 2 回	韓国・危機と改革について講義する。
第 3 回	台湾・高度化する受託製造、深まる中国との関係について講義する。
第 4 回	香港・変容する自由放任主義について講義する。
第 5 回	シンガポール・都市国家の開発体制について講義する。
第 6 回	タイ・開かれた国家の経済発展戦略について講義する。
第 7 回	マレーシア・先進国入りを模索する他民族国家について講義する。
第 8 回	インドネシア・新しい成長基盤形成への期待について講義する。
第 9 回	フィリピン・経済成長への新たなチャレンジについて講義する。
第 10 回	華人経済・在外華人は東南アジアをどう変えたかについて講義する。
第 11 回	中国・中国型資本主義の模索について講義する。
第 12 回	ベトナム・脆弱性をどう克服するかについて講義する。
第 13 回	ミャンマー・計画経済から市場経済への転換について講義する。
第 14 回	インド台頭するグローバルパワーとパキスタンの持続的貧困削減について講義する。
第 15 回	バングラデッシュ・豊かさへの挑戦について講義する。
第 16 回	筆記試験

**到達目標**

受講生がアジア諸国の経済を分析する方法を学ぶことを支援することが、本授業の狙いである。受講生が日本企業における「開発は日本、生産はアジア」という一元的なグローバル戦略の変化について知って貰うことを目標としている。

**履修上の注意**

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出るアジア地域の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。試験及びレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後 30 分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

**予習・復習**

授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所と新聞・WEB サイトのアジア経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

**評価方法**

学期末試験 70%、授業内レポート 20%、受講態度 10%。

**テキスト**

- ・教科書名：『アジア経済読本』（第 4 版）
- ・著者名：渡辺利夫【編】
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出版年 (ISBN)：2009 年 (ISBN) 9784492100226